

題材名

「日本歌曲とカンツォーネ 2か国の歌の言葉の特性を生かして、表現を工夫して歌おう」

本題材で育成する資質・能力

知識・技能

思考力・判断力・表現力

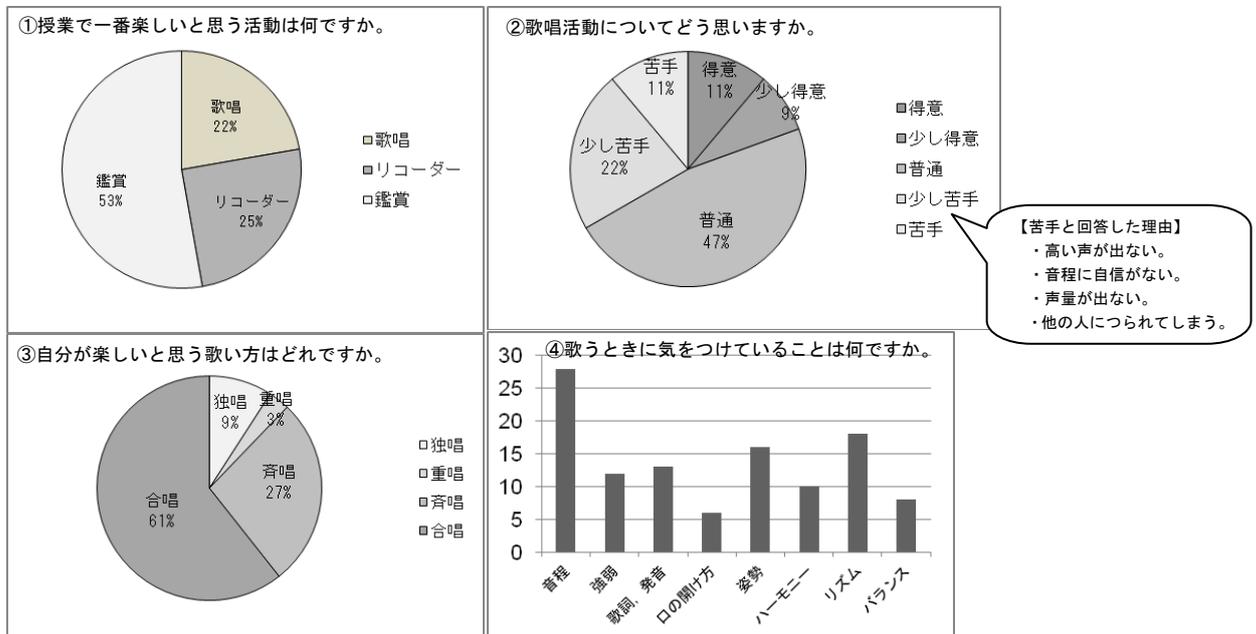
自己形成力

① 題材について(題材観・生徒観・指導観)

1 題材観

本題材は、学習指導要領音楽編の第2学年及び第3学年の内容「A 表現(1) ア 歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して歌うこと。イ 曲種に応じた発声や言葉の特性を理解して、それらを生かして歌うこと。」に基づき設定した。〔共通事項〕は、「音色」「リズム」「旋律」「強弱」を扱う。この題材の目標を達成させるために、日本歌曲の『夏の思い出』とカンツォーネの『サンタ・ルチア』を教材に用いる。

2 生徒観(音楽興味関心アンケート)



アンケートの結果より、鑑賞活動が楽しいと感じる生徒が53%であることがわかった(①)。歌唱活動では、合唱に楽しさを感じている生徒が61%である(③)。歌うときに気をつけていることについて、一番多い項目は「音程」であった(④)。また、変声期で、高い声が出ないことや声量が出ないことにコンプレックスを感じている生徒が男子に多いこともわかった(②)。

本学級の生徒は、今年度、『翼をください』と『Best Friend』の混声三部合唱、『大地讃頌』の混声四部合唱を経験した。日本歌曲については、昨年度に『赤とんぼ』を歌唱している。今回の題材で扱うカンツォーネ『サンタ・ルチア』は、外国語の曲に取り組む初めての曲となる。

3 指導観

指導にあたって、『夏の思い出』は日本語のもつリズムや抑揚が旋律に表されていることから、言葉と音楽の関係に気付かせ、日本歌曲の美しさに触れさせることができると考える。指導の際には、範唱を行い比較させることで、どんな声色、どんな声量で歌えばこの曲にふさわしくなるか、生徒に考えさせる機会を大切にして授業を進めていきたい。また、視聴覚教材を用いて、日本の尾瀬の自然の豊かさや美しさを感じ取らせる。

『サンタ・ルチア』は、イタリア語で歌われるカンツォーネである。日本語にはない、イタリア語特有の母音や巻き舌の響かせ方に着目させながら、イタリア語で歌わせることにチャレンジさせることで、外国の音楽に触れさせる機会としたい。また、三大テノールの演奏を鑑賞させて歌い方を考えさせることで、次の題材のオペラの学習にも繋がる活動にしていきたいと考えている。

本題材では、パフォーマンス課題(実技テスト)で一人一人が独唱することをゴールとしている。苦手意識のある生徒もいるが、自分の声や自分の思いに向き合って歌唱活動に取り組むことで、自分の歌声を探るきっかけにしてほしいと考える。また、変声期の生徒への配慮のため、実技テストは別室で行う。

② 題材の目標と身に付けさせたい力について

1 題材の目標

- (1) 歌詞の内容や曲想から情景を思い浮かべ、表現を工夫して歌うことができる。
 (2) 日本歌曲とカンツォーネの、それぞれの言葉がもつリズムや抑揚を生かして歌うことができる。

2 題材の評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能
①歌詞の内容を感じ取ったり、旋律を覚えたりする活動に意欲的に取り組んでいる。 ②曲の雰囲気を醸し出す要素を探り、それらを自分の言葉で表す活動に主体的に取り組もうとしている。	①音色、リズム、旋律、強弱について知覚し、言葉の抑揚と音楽の関わりを感じ取りながら、曲にふさわしい音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	①言葉のリズムや抑揚を生かして歌唱表現するための技能を身に付けて歌っている。

3 本題材で育成を目指す資質・能力

(1) 本校の設定した資質・能力と本単元との関わり

資質・能力		特に身に付けさせたい力	本単元での育成・評価
知識・技能	知	①学習したことを自ら語れる力（知の構造化）	○
思考力・判断力・表現力	思	①根拠をもとに、正しい判断をする力（論理的思考力）	—
		②よりよい解決のため、いろいろな見方・考え方を持つ力（批判的思考力）	—
		③自分の考えを相手が納得できるよう分かりやすく伝える力（言語力）	○
主体的に学ぶ力	主	①自ら課題を見だし、解決しようとする力	—
他者とのかかわる力	他	①他者と協力して、課題を解決したり、目標に向かって取り組んだりする力	—
		②他者とのかかわりを通して、自分の考えを深めたり広げたりしようとする力	—
社会貢献力	社	①よりよい地域社会のために、何をすべきかを考え実行しようとする力	—
自己形成力	自	①前向きにチャレンジし、より自律・自立した人間になろうとする力	○
		②自信を持つ力	—

(2) 本題材で本校の設定した資質・能力を身に付けさせるための手立て

資質・能力	資質・能力を身に付けさせるための手立て
知ー①	学習したことを自分の言葉でまとめ、曲のよさをプレゼンテーションさせる。
思ー③	自分が表現したい思いや意図を、聴き手に伝えるための表現を考えさせる。
自ー①	パフォーマンス課題（実技テスト課題）を独唱で歌うことにチャレンジさせ、自分の声や表現したい気持ちに、自ら向き合う機会を持たせる。

③ 題材計画

1 題材の全体像（Ⅰ：学習内容，Ⅱ：学習活動，Ⅲ：単元として生徒に身に付けさせたい力）

Ⅰ 日本歌曲とカンツォーネについて	Ⅱ それぞれの原語の伝え方を工夫することを通して、
Ⅲ 日本語とイタリア語の語感を生かした歌唱表現の力を身に付けさせる。	

2 題材の終末で見取るパフォーマンス評価

パフォーマンス課題	評価基準
【実技テスト課題】 あなたは来月行われる日伊交流音楽会に呼ばれ、独唱で歌うことを依頼されました。曲は、「夏の思い出」か「サンタ・ルチア」のどちらか1曲をぜひ歌ってほしいと、リクエストがあります。聴いている人に言葉のリズムや抑揚が伝わるように、原語の特徴を生かして歌いなさい。また、演奏前にはお客に曲の魅力を簡潔に（日本語で20～30秒程度）伝えること。	A 言葉のリズムや抑揚を生かして、適切な声量で、表情豊かに歌うことができ、自分が表現したい思いや意図を伝えている。
	B 言葉のリズムや抑揚を生かして、適切な声量で歌うことができ、自分が表現したい思いや意図を伝えている。
	C 声量、音程等を意識して歌うことができている。

3 学習内容と評価の計画

学習過程	時	<input type="radio"/> 本時のめあて <input checked="" type="radio"/> 学習内容	評価			
			関	創	技	価
課題の設定	1	<input type="radio"/> 日本語とイタリア語の2カ国の歌に親しもう。 <input checked="" type="radio"/> 「夏の思い出」 <input checked="" type="radio"/> 「サンタ・ルチア」	○			アー① 日本歌曲とカンツォーネをそれぞれ歌う活動に、主体的に取り組もうとしている。 (観察)
情報・分析の収集	2	<input type="radio"/> 歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して歌おう。【本時】 <input checked="" type="radio"/> 「夏の思い出」		◎		イー① 音色、リズム、旋律、強弱について知覚し、 言葉の抑揚と音楽の関わりを感じ取りながら 、曲にふさわしい音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。 (ワークシート、発表) 【思ー③】
	3	<input type="radio"/> カンツォーネの魅力を味わい、曲想を生かして表現を工夫しよう。 <input checked="" type="radio"/> 「サンタ・ルチア」		○		イー① 音色、リズム、旋律、強弱について知覚し、 言葉の抑揚と音楽の関わりを感じ取りながら 、曲にふさわしい音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。 (観察、発表) 【思ー③】
まとめ・創造・表現	4	<input type="radio"/> 曲の特徴やよさをプレゼンテーションしよう。 <input checked="" type="radio"/> 「夏の思い出」 <input checked="" type="radio"/> 「サンタ・ルチア」	○			アー② 曲の雰囲気や醸し出す要素を探り、それらを 自分の言葉で表す活動に主体的に取り組もうとしている 。 (ワークシート) 【知ー①】
振り返り	5	<input type="radio"/> 言葉のリズムや抑揚を工夫して、曲の魅力を歌で伝えよう。(実技テスト) <input checked="" type="radio"/> 「夏の思い出」 <input checked="" type="radio"/> 「サンタ・ルチア」 (どちらか1曲を選択)		◎		ウー① 言葉のリズムや抑揚を生かして歌唱表現するための技能を身に付けて歌っている 。 (実技テスト) 【自ー①】

④ 本時の学習

1 本時の目標

歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して歌おう。

2 本時の評価

評価規準（評価の観点）	評価基準	
イー① 音色、リズム、旋律、強弱について知覚し、 言葉の抑揚と音楽の関わりを感じ取り ながら、曲にふさわしい音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。 (ワークシート、発表) 【思-③】	A	言葉の抑揚と音楽の関わりについて、感じ取った自分の考えをワークシートに書き、他者に伝えることができている。
	B	言葉の抑揚と音楽の関わりについて、感じ取った自分の考えをワークシートに書くことができている。
	C	言葉の抑揚と音楽の関わりについて、自分の考えを持つことができていない。

3 準備物

ワークシート、CD、拡大譜

4 学習展開（2限目/5）

学習過程	課題の設定	情報の収集	整理・分析	まとめ・創造・表現	実行	振り返り
学 習 活 動		指導上の留意点			評価規準 (評価方法) 【資質・能力】	
導入 (10分)	1. 既習曲で発声練習をする。 (K)…くり返し挑戦する)	○既習曲で、響きのある歌声を意識させる。				
	2. 前時の復習をする。	○「夏の思い出」の斉唱を進めて、曲の雰囲気を出させる。				
【本時のめあて】歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して歌おう。						
展開 (30分)	4. 尾瀬の情景をイメージする。	○視聴覚教材を用いたり、この曲ができた背景について話したりして、尾瀬の美しい情景イメージさせる。			イー① 音色、リズム、旋律、強弱について知覚し、 言葉の抑揚と音楽の関わりを感じ取り ながら、曲にふさわしい音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。 (発表、ワークシート) 【思-③】	
	5. 歌詞を朗読し、前半部分を歌う。	○鼻濁音について説明する。 ○リズムに近い読み方で範読する。 ○旋律と言葉の関わりに気付かせて、語りかけるように前半部分を歌わせる。 ○既習の日本歌曲、「赤とんぼ」で学習したことにも触れる。				
	6. 後半部分について、ワークシートで曲の盛り上がるところを考える。 (J)…じっくり考える)	○曲が盛り上がる場所について、ワークシートで考えさせる。 ○音楽的に盛り上げるためには、どの言葉を大切にしたらよいか、発問する。 ○範唱して、どの表現がよいか考えさせる。				
	7. 「夏の思い出」を歌う。 (H)…はっきり表現する)	○まとめとして、歌唱を進める。				
	8. 2種類の、ソプラノ歌手が歌う「夏の思い出」を聴く。	○歌い手によって大切にしている言葉や発音、抑揚が少しずつ違うことに気付かせ、自分なりの意図を持って歌に取り組むことが大切だということを伝える。				
まとめ (10分)	9. 本時の振り返りをする。	○振り返り表を書かせる。 ○今日の授業で、深まったことについてほめる。				
	10. 次時の確認をする。	○次時の予告をする。				